

---

# カップ・イン・ドリーム ～夕暮れのクリスマスに～

先綾 悠

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

カップ・イン・ドリーム 夕暮れのクリスマスに

### 【Nコード】

N7265L

### 【作者名】

先綾 悠

### 【あらすじ】

ある年のクリスマス。僕は娘とケーキを買いに商店街に行ったのだが、そこにはあるものがセール中でした。

(前書き)

季節外れで申し訳ないです m ( ( m

今日はクリスマス。

僕は六歳の娘といっしょにケーキを買いに近くの商店街まで来ていた。幸いなことに今年はホワイトクリスマスになって、娘も大はしゃぎだ。

ここはあまり雪の降らない土地なので、こうしてホワイトクリスマスを迎えられたことは僥倖といえる。

「おとーさん、どんなケーキがあるかな？」

一人娘の由紀が僕の手を握り、期待に満ち溢れた顔で聞いてきた。

「ん？ 由紀の好きなケーキを買ってあげるよ」

「ホント？ おとーさん、ありがとー」

僕は本当に娘には甘い。よく妻にも言われるがこの笑顔を曇らせたくはないからね。

商店街はクリスマスと言うだけあって活気があった。クリスマスももう終盤というだけあって、セールをはじめている店もある。

「ねえ、おとーさん、あれ何ー？ 同じ色のコップが並んでるよ？」

由紀が指差しているのは、店先に並んでいるセール中の品だった。

「ああ、これはね。ペアカップだよ」

「ペアかっぷ？」

「うん。仲のいい男の人と女の人が、仲良くなった記念に買うんだよ」

「でもおとーさんとおかーさんは持ってないよね？ 仲良くないの

……っ？」

由紀が一瞬泣きそうな顔になったけど、僕は笑顔を向けて、

「お母さんは恥ずかしがり屋さんだからね。こういうのはあんまり買わないんだ」

と、優しく説いた。実際僕の妻は結構な恥ずかしがり屋で、あまり『恋人』な物を買った記憶がない。

「そっかあ。よかった……。……それじゃあ私に買って」

「……え。どうして？」

「だって、仲のいい男の人と女の人が買うんでしょ？　じゃあお父さんと私でもいいよね？」

「うん……。こういうのはね、お父さんじゃなくて、もっと仲のいい男の子のお友達が出来たら買いたくないよ」

「お父さんより仲のいいお友達なんていないよ」

それはお父さんとしては嬉しいんだけどね……。

「由紀は優しいからきつと出来るよ」

「私は、お父さんがいいのー」

お父さん嬉しくて涙が出そうだよ。

「ありがとう。でもお父さんは由紀と一緒にケーキを食べるほうが嬉しいな」

「うん……。じゃあケーキで我慢してあげる。でもペアカップもいつか買ってね」

「はいはい。それじゃあ行こうか」

「うん！」

そうして由紀は嬉しそうに僕のコートに飛びついてきた。  
今年も良いクリスマスになりそうだ。

あれから二十年後。娘夫婦の食器棚には一組のペアカップが置いてあります。

（後書き）

批評どんどん下さい！  
なるべく具体的にお願いです><

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7265/>

---

カップ・イン・ドリーム ～夕暮れのクリスマスに～

2010年10月21日23時25分発行